

## LaTeX のルビ用フィルタ

下記の LaTeX パッケージに依存する。

- pxrubrica
  - `\usepackage{pxrubrica}` をヘッダ（プリアンブル）に読み込む
  - 詳細
    - \* LaTeX 文書で “美しい日本の” ルビを使う 〜pxrubrica パッケージ〜 - Qiita
    - \* マニュアル pxrubrica パッケージ

※ luatexja-ruby パッケージには非対応。

## 構文

`[親文字](ルビ文字){.ruby}`

`[alphabet](欧文ルビ文字){.aruby}` ※ pxrubrica のみ

オプションは Pandoc's Markdown の属性 (attribute) として与える。オプションの構文自体は両パッケージとも共通に使える。

構文 (Pandoc's Markdown) :

`[親文字](ルビ){.ruby opt="オプション"}`

たとえば

`[雲雀](ひばり){.ruby opt="g"}`

は

`\ruby[g]{雲雀}{ひばり}`

に変換される。

## 例

### 例 1

Markdown :

あれは [鷹](たか){.ruby}ではなく [鶯](うぐいす){.ruby}です。

出力結果 :

あれは鷹<sup>たか</sup>ではなく鶯<sup>うぐいす</sup>です。

## 例 2

Markdown :

[小鳩](こ|ばと){.ruby} [孔雀](く|じゃく){.ruby} [七面鳥](しち|めん|ちょう)

出力結果 :

こ ば と く じゃ く し ち め ん ち ょ う  
小鳩 孔雀 七面鳥

## 例 3 (圏点)

Markdown :

[本質]{.kenten}

出力結果 :

・ ・  
本質

## 例 4 (グループルビ)

Markdown :

[雲雀](ひ|ばり){.ruby opt="g"} [不如帰](ほととぎす){.ruby opt="g"}

出力結果 :

ひ ば り ほ と と ぎ す  
雲雀 不如帰

## 例 5 (モノルビ)

Markdown :

[孔雀](く|じゃく){.ruby opt="m"} [七面鳥](しち|めん|ちょう){.ruby opt="m"}

出力結果 :

く じゃ く  
孔雀 [七面鳥](しち|めん|ちょう){.ruby opt="m"}

## 例 6 (\aruby : 欧文用のルビ)

pxrubrica における \aruby (欧文用のルビ) の構文も用意している。

構文 :

[alphabet](ルビ){.aruby}

Markdown :

[Pandoc] (パンドック){.aruby}と [Markdown] (マークダウン){.aruby}

出力結果 :

パンドック   マークダウン  
PandocとMarkdown

注意 : \truby や \atruby などは提供しない。